

### 1. 調査の概要

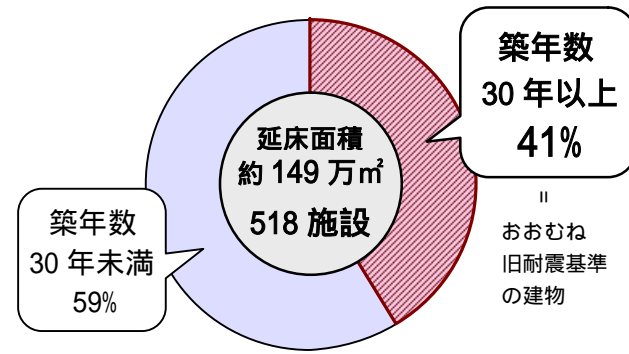
西宮市では、これまで人口増加や行政需要に伴い積極的に整備してきた多数の公共施設が、時間の流れとともに老朽化してきており、今後、施設の維持や建替にかかる費用の増加が避けられない状況になっています。

厳しい財政状況の中で、公共施設の機能や性能を維持しつつ、費用の縮減を図ることは、今後の市政において重要な課題であり、現在、市ではこうした課題に対応していくため、「公共施設の全体最適を図るマネジメント」の取り組みを行っています。

この調査は、今後の取り組みを進める上で基礎資料とするため、「市民の日常の公共施設の利用状況」を把握するとともに、「公共施設マネジメント」の考え方に対する意識・意見を把握することを目的に実施しました。

（ ）公共施設マネジメントとは、市民サービスの向上や地域社会に寄与するため、公共施設とその環境について、「財務、品質、供給」それぞれの視点から全体の最適化をめざし、一元的、計画的に管理を行っていく活動のことを言います。

～西宮市の公共施設の状況～  
(全体規模と築年数別割合:平成 21 年度末現在)



修繕・建替に係る費用：年間平均約 95 億円

(西宮市公共施設白書策定時点における試算額)

#### (調査の設計)

|      |                                      |
|------|--------------------------------------|
| 調査地域 | 市内全域                                 |
| 調査対象 | 20 歳以上 75 歳以下の西宮市民                   |
| 標本数  | 3,500 名 (住民基本台帳及び外国人登録原票より無作為抽出)     |
| 調査方法 | 郵送配布・回収による調査                         |
| 調査期間 | 平成 23 年 11 月 1 日 (木) ~ 11 月 30 日 (水) |

#### (回収結果)

|              |             |
|--------------|-------------|
| [回収数] 1,407  | (回収率 40.2%) |
| うち有効回答 1,402 | (回答率 40.1%) |

### 2. 集計結果の概要

集計結果の詳細については、調査結果(本編)をご覧ください。

|                                |   |
|--------------------------------|---|
| 公共施設の過去 1 年間の利用状況              | 市役所・支所、図書館以外は、利用者の割合が 40%未満。  |
| 公共施設の維持保全・全体最適の手法として最も有効と考える方策 | 「施設の量を減らし、維持管理や修繕・建替の費用を削減すること」が最多で、全体の約 39% (554 人)。一方で、公共施設を利用している人は、維持管理の効率化や長寿命化を有効と考える人の割合が比較的高い傾向も見られました。 |
| 公共施設の量を減らすことを検討する場合、対象にすべき施設   | 「利用者が少ない (730 人)」、「需要に合わない (705 人)」、「一部の個人・団体にしか使われない (699 人)」(上位 3 位)  |
| マネジメントに期待する効果                  | 「財政負担の軽減」が最多で、全体の約 60% (843 人)。   |

### 3. 調査結果のとりまとめについて

選択肢回答の他に「公共施設マネジメントの取り組みについて」の自由回答を求めたところ、回答者のほぼ 3 人に 1 人という多数の回答をいただきました。回答の内容は多岐にわたり、それらを分類したところ、公共施設マネジメントの方向性として考えられる要素が幅広く取り上げられていました。

そこで、今回のアンケート結果のとりまとめにあたっては、それぞれの要素の中から代表的な意見を拾い上げるとともに、意見をふまえた市の基本姿勢を示すことにしました。(以下に、主軸となる 4 つの要素について、市の基本姿勢を示します。その他の要素や、代表的な意見の内容については、調査結果(本編)をご覧ください。)

#### 維持管理の適正化・効率化

今後、公共施設の最適な運用を進めるにあたり、今まで以上に施設管理水準の適正化や効率化に取り組んでいきたいと考えます。

公共施設の日常維持管理業務を効率的に実施することで、経常的経費の圧縮を図るとともに、施設の状態を良好に保つことで、利用者に対する安全・安心・快適性を高めます。

#### 施設性能の適正化・効率化

今後、人口減少や高齢化社会などの環境変化を迎えたとしても、本当に必要な公共施設はこれからも継続して利用していくべきであると考えます。

中長期的視点から計画的な保全整備を実行し、公共施設を管理していくことで、維持・更新の合理化を図るとともに、施設性能の改善やエネルギー効率の向上を実現し、施設の長寿命化を図ります。

#### 公共施設マネジメントの方向性の主軸となる 4 つの要素と基本姿勢

#### 施設機能の適正化・効率化

今後、公共施設の最適な保全・整備を進めるにあたり、施設を有効に利活用できる方策についても取り組んでいきたいと考えます。

市民・地域の需要等に照らして有効活用されていない施設や、非効率的な機能配置の施設に対して、将来的な需要も視野に入れながら、用途転換、再配置、複合化などによって施設機能の最適化を図ります。

#### 施設総量の適正化・効率化

今後、施設の最適な保全・整備を進めるにあたり、施設総量の適正化・効率化を図っていくことは、重要な視点であると考えます。

施設の性能・機能や将来的な需要など、様々な観点で保有施設の適正量を見極め、再編等によって総量の縮減を図り、将来負担を軽減するとともに、時代に合った最適な公共施設の供給を実現します。

公共施設マネジメントの取り組みに期待する効果として、「財政負担の軽減」が最も多かったことから、多くの市民が財政状況を改善する取り組みを望んでいることがうかがえます。このことから、市は今後さらに積極的にこの課題に取り組み、公共施設マネジメントのための基本的な方針などを作成していきたいと考えています。